

校長室だより

春日 (しゅんじつ)

校長 清武 直人

奇跡のリンゴ

日曜日に妻と二人でこの映画を見に行きました。

秋則は、リンゴ農園に養子として嫁ぎます。年に十数回散布する農薬に体調を崩す妻の姿を見て、秋則はリンゴの無農薬栽培を目指します。

秋則の思いが実現するためには、10年以上の年月を費やしました。その間多くのものを失いました。財産、友人、信頼。そして、孤独と極貧の生活。しかし、家族の愛は失われることはありませんでした。そして、ついに秋則の努力が実る日が訪れるのです。

泣きました。流れる涙を妻に悟れないように拭きました。

「貧しさがこんなに美しく映るのはなぜだろう。」

考えました。豊かさの中にあっては見えない本当の愛が見えるからかなあって思いました。

どんな時でも支え合う、譲り合う、信じ合う。これが本当の愛。

奇跡のリンゴ その2

秋則は、幼いときから好奇心旺盛な子どもでした。疑問に思ったことはとことん追究する子どもでした。そのかわり、失敗することも多く、そのたびに父親に叱られました。そんな時、母が秋則に言うのです。

「秋則、1つ失敗したら、常識を1つ捨てればいい。」

母の愛は深い。母は、どんな時も子どものよき理解者でした。そして、母の言葉は示唆に富んでいました。

子どもをとことん信じる愛を持ち、子どもを勇気づける言葉を持った親でありたいと思いました。

いい映画だったなあ！



過干渉

1年生が朝顔を育てています。朝顔は1年生の愛情をたっぷり受けて、ぐんぐん大きくなっています。

もう10日以上も前になりますが、1年生が間引きした朝顔の苗を3つもらってプランターに植え、校長室の窓際に置きました。

いつツルが伸びてもいいように、校長室の天井から細いひもを張りました。こっちの朝顔はこのひもに、真ん中の朝顔はこのひもで、そして、こっちの朝顔はこのひもに。準備万端。私の朝顔も順調に生長し始めました。

月曜日の朝、学校に来てみると、右端の朝顔のつるが、左のひもに、真ん中のつるは右のひもに巻き付いているのです。

「え～！ちがうでしょう！」

「君はこっちで、君はここ。」

一つ一つツルをほどいて右は右、左は左のひもに巻き付けてあげました。

「ね！言うとおりにしていれば見栄えがいいんだから！」

